

ただみ・モノとくらしのミュージアム 第3回テーマ展 開催中!

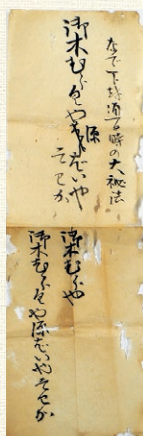
ただみ・モノとくらしのミュージアムでは、第3回テーマ展「只見町文化財新指定記念〈会津只見のヤマサキ資料〉と〈瀧泉寺聖教典籍〉」を開催しています。只見町の指定文化財は、2025年現在30件あります。本テーマ展では、近年新たに指定された2つの文化財を取り上げています。

1つ目は〈会津只見のヤマサキ資料〉です。ヤマサキとは、狩猟や山樵（木こり）など、山仕事をした人々の先達・親方という意味です。山ノ神の司祭者でもありました。福島県では只見町だけで確認されていますが、山形県小国町、新潟県村上市旧朝日村でも確認されています。只見町のヤマサキは、特定の家が世襲的につとめてきており、朝日地区2軒、只見地区3軒の計5軒確認されています。それぞれの家のヤマサキ関連資料は、町に寄贈され、2024年4月に只見町文化財に指定されました。本テーマ展では、各家のヤマサキ関連資料を紹介するとともに、狩猟や山樵で使われた民具もあわせて展示しています。



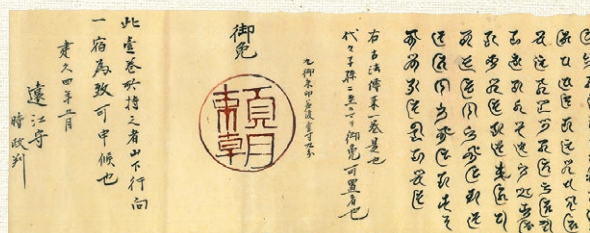
▲山ノ神の祭壇 展示風景

床の間に祭壇を設け、家の神棚とは別に山ノ神を祀っていた。



▲なで下を通る時の大秘法（只見町小川）

なで（雪崩）が起きそうな所の下を安全に通る時のまじない歌。
ヤマサキの司祭者としての活動がわかる資料



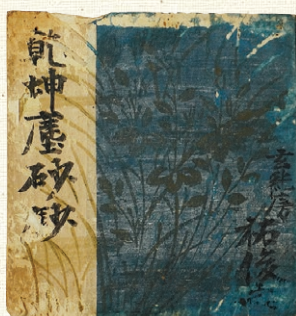
▲山立根元巻（只見町田子倉）

狩猟の許可状。源頼朝・北条時政が、所持する者に狩猟を許可すると書かれている

2つ目は〈瀧泉寺聖教典籍〉です。瀧泉寺は、只見町黒谷にある真言宗のお寺です。2017年11月に、室町時代から江戸時代の聖教典籍（仏教古典籍）が約700点発見されました。応永35年（1428）を最古として、室町時代・安土桃山時代の古典籍が127点、うち97点は、『神皇正統記只見本』を書写した玄純房祐俊（1547～1606～?）がこの地にもたらしたものです。本テーマ展では、瀧泉寺のさまざまな装訂の中世写本（手書きの書物）を通して、書誌学の基礎を学ぶことができます。



▲瀧泉寺聖教典籍 展示風景



▲乾坤塵砂鈔 1586年 祐俊筆

日本に、このひとつしか伝わっていない、孤本の古典籍



▲伝法灌頂道場料理等 1585年 祐俊筆
折本と呼ばれる装訂。横長の継紙を折り揃えて装訂した様子

文化財指定の目的は、文化遺産を未来に向けて永久に保存し、町民のために活用（公開）していくことです。文化財のお披露目として展示しますのでぜひご覧ください。

文・写真：原永円香



ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示情報 入館無料

第3回テーマ展

「只見町文化財新指定記念〈会津只見のヤマサキ資料〉と〈瀧泉寺聖教典籍〉」

会期：2025年3月25日(火)～2025年6月29日(日)

場所：ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示ホール